

救急外来棟など完成

地域医療連携センター併設



「施設の整備だけでなく医療スタッフの招へいにも力を入れ、救急体制の強化に取り組みたい」と開所式であいさつした布施市長



7月1日に開所した市民病院救急外来棟・地域医療連携センター（右側）。関係者が見守る中、テープカットで開所を祝いました

救急機能の向上と医療や介護・福祉の連携拠点として登米市民病院本館北側に建設が進められていた市民病院救急外来棟・地域医療連携センターが完成、7月1日に開所式が行われました。

施設は鉄筋コンクリート造り2階建て、延べ床面積は1209平方メートル。隣接する本

館とは渡り廊下でつながっています。1階の救急外来棟は診察室と待合室、処置室などが設けられました。2階の地域医療連携センターには、がん相談支援室やカンファレンス室などを設置、市医師会事務所も移転し、開業医との連携強化を図ります。総事業費は約4億2000万円です。

模範となる優良施工業者

18工事12業者を表彰



優良施工業者として表彰された12業者の皆さん

市では、本年度の市優良工事施工業者、市水道事業優良工事施工業者の表彰式を7月5日に開催しました。平成24年度中に完成した300万円以上の市発注工事275件、水道事業所発注82件の工事を対象に審査、他の模範となる18工事を施工した12業者を選定しました。

追公民館で行われた表彰式では、布施孝尚市長が業者の代表者に表彰状を手渡し「震災後の大変厳しい状況の中、皆様の日頃のご尽力に感謝します」と述べました。業者を代表し、(株)千葉正工務店の千葉正雄代表取締役と登米建設(株)の嶋忠和代表取締役がそれぞれあいさつしました。

6月11から17日までの7日間、海外姉妹都市であるアメリカテキサス州サウスレイク市から10人（生徒9人・随行人1人）の訪問団が登米市を訪れ、ホームステイなどで交流を深めました。

6月14日には中田農村環境改善センターで歓迎夕食会を開催。布施孝尚市長をはじめ

め、ホストファミリーや過去に青少年海外派遣事業で海外に行った生徒たちなどが出席しました。ホストファミリーとして生徒の一人ステファン君を受け入れた原よしえさん（追町）は「すごく優しい子。日本語で何度も『ありがとう』と言ってくれました」と笑顔で話していました。



布施市長（右から2人目）に大臣賞の報告に訪れたおとちグリーンステーションの役員

大豆栽培で農水大臣賞

おとちグリーンステーション

米山町の農業生産法人、有限会社おとちグリーンステーション（柳渟淳一代表取締役）が、第41回全国豆類経営改善共励会において農林大臣賞を受賞しました。

おとちグリーンステーションは約30畝の大豆と水稲とのブロックローテーションを実施。技術向上、経営改善、

販売、消費拡大への取り組みが高く評価されました。

7月17日、大臣賞受賞の報告に市役所の布施孝尚市長を訪れたおとちグリーンステーションの柳渟代表取締役は「農林水産大臣賞の受賞は大きな励みになる。今後とも、いつそうの経営改善に努めたい」と話していました。



歓迎会のステージで紹介される訪問団とホストファミリーの皆さん

サウスレイクから訪問団

ウェルカム、TOME

登米市出身で首都圏に在住する方々で組織する在京町人会連絡協議会（遠藤誠幸会長）の総会が7月16日、東京都の東天紅上野店を会場に開催されました。

総会では、事業報告や決算などの審議が行われたほか、東京で登米市農産品を販売する「地産都商検証事業」やイ

ふるさとと思い情報交換

在京町人会連絡協で総会

ンターネット物産販売、ふるさと応援寄付金制度など市の取り組みを紹介。懇親会では布施孝尚市長を交え、各町人会の近況報告や情報交換を行いました。今後も、登米市出身者の結びつきを強め、首都圏で開催される物産展や産業振興の情報提供などにご協力をいただくこととしています。



総会に出席した各地区町人会の代表の皆さん